

薬剤管理指導業務に活用できるPOSデータベースの開発

○大野逸子¹ 杉平直子¹ 1 メディカルデータベース株式会社

POSデータベース開発目的

POS (Problem Oriented System) は患者の問題点を明確化し、論理的・系統的に問題解決することにより、薬剤管理指導業務の質の向上に寄与すると考えられている。しかし一方で、薬剤師の経験やスキルに依存した患者ケアのばらつきや、記録に時間がかかるといったことが懸念されている。そこで、カルテや初回面談から得られる患者プロフィール(患者情報)や処方監査情報に関わる問題点の抽出とケアを標準化し、SOAP形式による指導記録の作成を支援するデータベースの開発を行った。

方法

①患者プロフィール・処方監査項目の抽出

○薬剤管理指導を実施する上で患者情報に基づいた処方解析が重要である。そこで、**患者情報の中で薬物治療に関連する項目**を抽出し、これをプロブレム立案の根拠となる情報と位置づけ、キー項目とする。
○また、既に開発済みの処方監査データベースの**監査項目(相互作用、アレルギー既往禁忌など)**を、監査レベル(禁忌、注意など)ごとにキー項目として設定。

②プロブレムの設定

①で抽出された情報から、想定されるプロブレムを作成し、各キー項目との関連付けを行う。
32のプロブレムを設定。

③各プロブレムにおける標準ケア計画のデータ化

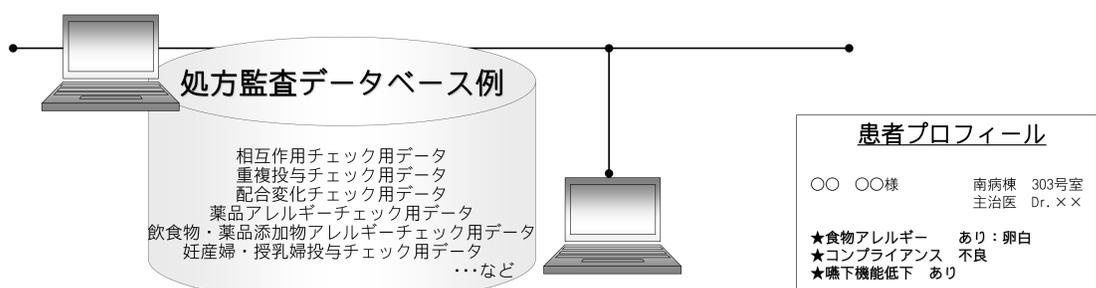
プロブレム解決の手段として、患者への確認事項や観察項目、対処方法を**標準ケア計画(プラン)**として、各プロブレムごとに作成。

④SOAP記録情報のデータ化

プランの実施により想定される、**S(主観情報)**、**O(客観情報)**やそれらに基づく一般的な**A(評価)**と**P(指導・計画)**をリストアップしてデータベース化することにより、SOAP形式による標準的な指導記録の作成支援を可能とする。

結果〈データベースの活用〉

A. 電子カルテ/処方監査システムとの連動



相互作用、アレルギーなど身体情報、コンプライアンス不良などのキー項目★を元に、データベースにセットされている【プロブレム+Initial Plan(初期計画)】が自動的に立案される。



自動的に立案された初期計画を実行し、記録用SOAPデータを選択することで、効率的に指導記録を作成できる。

※SOAP記録のプラン(指導・計画)と次回プランを区別するため、記録用SOAPデータのプランを「I」、次回プランデータを「P」としてデータベース上の属性を区別。



B. テンプレート



データベースには32のプロブレムと、各プロブレムに対して6~20の標準ケア計画を定義している。患者ごとに必要なプランを選択し、指導内容に対応した、記録用SOAPデータを選択し指導記録を作成できる。

薬剤管理指導記録			
プロブレムリスト			
プロブレムNo.	発生日	内容	終了日
#1	2008.3.1	相互作用に関連した問題	
#2	2008.3.1	飲食物・添加物アレルギー患者への薬物治療管理	
#3	2008.3.1	コンプライアンスに関連した問題	
#4	2008.3.1	嚥下機能低下による服薬への影響	
指導(経過)記録			
実施日	プロブレムNo.	内容	備考
2008.3.1	#1	O コナ錠5mg錠:アクトス錠15錠投与中に、ACE阻害剤投与→低血糖が起りやすい併用注意 2/28よりコナ錠5mg 11新規処方	処方監査データベースと連動することにより、監査情報、作用機序を指導記録に反映できる
		A コナ錠は末梢でのインスリン感受性を高めることにより、アクトス錠15の作用増強	
	#1	S 薬を服用して、気になる症状はない	患者個々の詳細データや評価を追記 ※斜体で示した部分
		O FBS 2/28 103 2/29 110 3/1 109 BP 3/1 131/79 相互作用による他覚所見なし	
		A 相互作用による副作用症状なし、薬物治療の継続可能 併用による効果への影響なし 低血糖症状認めず BSコントロール良好	
	#1	P 指示通りの服用(使用)を継続 発現が予想される症状について伝え、発現したらすぐに連絡する	次回プランとして標準ケア計画からプランを選択。 次回指導時の引き継ぎのプランとなる。
		E P 併用薬剤により予測される影響を観察	
	#3	O コンプライアンス不良	
		A ノンコンプライアンスが治療効果に影響している可能性	
	#3	P OP 現在までの服用(使用)方法を聴取し、間違いや問題がないか確認 CP ノンコンプライアンスの原因を明確化し、ADL(日常生活動作)、理解度に合わせた指導を実施 EP 薬物治療の重要性と、指示通り服用(使用)することを説明	
		S グルコバイは食事の量によって、飲んだり飲まなかったり調節している	
		O 自己判断による服用方法の間違ひがある	
	#3	A 薬に関する不理解・知識不足あり	
		P 正しい服用(使用)方法を説明し、コンプライアンスを継続確認 薬物治療の重要性と、指示通り服用(使用)することを説明 OP 薬の服用(使用)を自己調節していないか確認	

考察

- データベースを活用することにより、POSの手法に基づく問題点の抽出とケア計画が標準化され、情報を整理して記録することにより、情報の共有化と継続的な管理が容易となる。
- 既に開発されている処方監査データベースによる監査情報と連動することにより、よりきめ細やかな問題点の抽出と薬学的管理が可能になると考える。
- 今回開発したデータベースによる標準的な指導及び記録をもとに、患者個々の問題に対応した詳細なデータや評価を付加することにより、効率的で質の高い薬剤管理指導業務が行えるものとする。

参考文献
 1) 河川清隆: POSによる標準ケア計画 改訂版, いはら, 2004
 2) 日本病院薬剤師会監修: 薬剤管理指導のためのプロブレムリスト作成の手引き, いはら, 2004
 3) 井上忠夫: 臨床薬剤師のためのEMCによるPOS21世紀の最新医療システム, 南山堂, 2000
 4) 竹田英文監修, 古原秀夫編: 院内感染防壁マニュアル, いはら, 1996
 5) 藤原と信昭: 11-19, 2006
 6) 藤原と信昭, 2002
 7) 山崎大, 安田忠司: 改訂第2版 妊娠・授乳時とすり 注意度別にお薬の選択指針, グランメディカル, 2001
 8) 在野孝謙, 加野弘道編: 実践 妊娠と薬-1, 173例の相談事例とその解説, 薬事時報社, 1993
 9) 日本産科医療学会 がん高血圧ガイドライン作成委員会編: がん高血圧ガイドライン, 真興文庫, 2000
 10) 日本薬剤師会編: 高齢者ケア管理マニュアル ADLと薬, 薬事時報社, 1999
 11) あすか薬局編: 小児のくすりと服薬管理, 南山堂, 2004
 12) 日本産科医療学会ホームページ http://www.zoonoke55.jp/